

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105516		
法人名	有限会社 幸生		
事業所名	グループホーム明日香		
所在地	岡山県岡山市東区九幡44-5		
自己評価作成日	令和元年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和1年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい職員・正看護師を迎え、医療面も更に充実し職員も信頼関係が築け、仕事に対するモチベーションが上がってきています。事業所の理念(笑顔・挨拶・誠実・思いやり)を実践し、ご利用者が安心して穏やかに生活できるよう、自分は何をすれば良いか？自分で課題を見つけチームケアに結び付け、定期的に勉強会を開催して、スキルアップを目指しています。よりよい支援ができるよう職員一同頑張っていきたいと思います。食事等にも気をつけ、家庭での味を大事にと提供しています。ご家族・地域の方の交流を大切にしながら気軽に立ち寄れる場所として、地域の中で根付いて行けたらと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社長は、父親の終の棲家として事業所を設立した。その際、以前から好意にしてもらっている地域の人に相談すると、地域貢献にもなるので、設立実現の為に協力をおしえないと後押しされた。開所当初は、その支援者がよく遊びに来てくれ、利用者とも交流してくれた。高齢化しなかなか訪れる機会は減ったが、野菜を届けてくれる等今でも交流はある。管理者と職員の関係は良好で、意見や提案が言いやすい。2か月に1回利用者の近況を知らせた手紙を利用者の家族に書いているが、利用者自身にも何か書いてもらおうとの提案があり実施した。家族からも大変好評で、今後も継続していこうと考えている。また、家族からの要望にも応えている。家族から「日記を書いて欲しいのでノートを持ってきます」と言われ、その日から日記を書いてもらった。その書いた日記を色紙に貼り、部屋に飾っている。書き忘れないよう、声を掛け継続支援もしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共通理解し、職員同士・入居者・地域の方・来訪者に対して、挨拶・笑顔を忘れずそっと寄り添えるよう実践につなげている	理念は誰もが一目見ればわかる「笑顔」。1日3回笑ってもらえれば、ストレス発散になるとの思いが込められている。職員が笑顔で接することは、利用者の笑顔に繋がるとも考え、日々支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が手作りの野菜・花等を持参して下さったり、季節に合わせた花壇の手入れも行ってくださいます。回覧・ゴミ(不燃物)等も協力して下さい。来訪時はホールにて入居者の方に声をかけて下さいます	地域とは設立前から交流があり、色々と気にかけてくれている。地域の方が野菜を持って来てくれたり、苗を植えてくれたりする。町内で開催される秋祭りには利用者全員が招待され、食事を楽しんだり、地域の人達と話しをしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進委員会・地域の方のボランティア活動を通じて認知症を理解して頂き支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進委員会において、2ヶ月ごとの行事報告・介護保険・入居者の様子等報告・共通理解して頂き、今後の支援につなげている。また参加者からの新しい情報を得ている	会議の場で出た意見や提案は、サービス向上に活かしている。職員名と当日の担当職員が分からないとの意見から、入口に貼り出すこととした。外部の人達との関わりが限られているとの話をしたところ、ボランティアを紹介してもらった。	運営推進会議の案内を一部の家族にしかしていない。今後は他の家族にも参加を呼びかけ、より活発な意見交換の場となる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の敬老会に参加させて頂いたり、地域包括・事業指導課の方の地域推進委員会参加頂いたり、介護保険・支援につまずいた時、相談・助言をいただいています	運営推進会議に市の担当者が参加してくれ、事業所の実情を理解してもらおう機会となっている。参加できなかった場合は、議事録を郵送し、事業所の実情を把握してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を策定し、身体拘束廃止委員会を立ち上げて3か月に1回委員会を開催している。代表者・全ての職員が共通理解しており、安全に生活して頂けるよう工夫しています	職員が揃っている日中は玄関の鍵をせず、玄関のチャイムが鳴れば直ぐ確認をするようにしている。玄関の方へ行こうとする利用者が居れば、「どうしたの」と声を掛け、「外へ出ようと思う」と言われれば、一緒に外へ出かける。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行なわれないよう勉強会を開催し、職員同士支援方法を確認しながら常に注意をはらい、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等について、研修会で学んではいるがこれからも学んでいかなければいけない。入居者で利用されている方もいるので折に触れ学ぶ機会を見つけ、理解し情報提供できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は十分な説明を行い、不安・疑問が生じないよう理解・納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に何でも話せる・相談できる雰囲気作りに気を配っている。2カ月毎に家族に状況のお知らせを送っており、信頼関係も築けてきている。意見・要望は職員間で話し合いに反映させている	家族から出た意見は職員間で話し合い、反映させている。夏祭りの日に偶然面会に来られた家族から、事前に教えてもらえたら手伝えるのにとの提案があった。そこで次回のクリスマス会の案内を玄関の扉に貼り、家族に参加を呼び掛けている。	家族が行事に参加してくれることで、家族同士の交流の機会ともなる。事業所に行事を貼り出すだけでなく、郵送での案内も是非検討して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員からの意見等、日々の申し送り、定期的に行われるミーティングにおいて個々の意見が出せるように配慮し反映させている	日頃から管理者と職員はコミュニケーションを図り、提案や要望が言いやすい関係である。職員から居室の扉が重く、開け閉めが大変との意見から、軽く扱いやすい素材に替えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員、個々の努力や実績状況を把握し、職員がやりがいを感じ向上心を持って働けるよう働き掛けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識している。全ての職員の質の向上を目指しており、ケアの技術面・利用者とのかかわりについて指導を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学・職場内での仕事の悩み解消など、事業所外の人材との交流を作り意見交換したり、経験をケアに活かしサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、ご本人の困っている事・不安な事・何を望まれているか見極めよりよい関係づくりが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には当ホームを理解して頂き、困っている事・不安を取り除けるよう関係を築いていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭的な雰囲気大切に安心して生活できる場であることを理解して頂き、家族の必要時は助言・情報交換を随時行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様はお客様であると同時に暮らしを共にする者同士の関係を築き共感と受容を大切にしています。傾聴も大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は連携を大切に、家族と本人の絆を大切にしながら家族との連絡を密にして、共に支えていけるよう関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大切にしている思い出の人・場所の関係が途切れない様家族と連携し支援に努めています	一年分の服は預からず、家族にその都度衣替えを依頼し、面会の機会としている。地区の敬老会に参加し、馴染みの関係継続を支援している。妹が体調を崩し、なかなか会いに来られず寂しさが募ったのを感じた時は弟に連絡し、妹に会いに出かけてもらったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格・趣味を把握しよりよい関係が築けるよう配置等にも配慮し、ご利用者同士関わりが持てるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了してもこれまでの信頼関係を大切にしながら必要に応じて相談・助言ができるよう支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の気持ちを尊重し、寄り添いながらその人なりの暮らしが継続できる様に意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討しています	利用者の気持ちに共感するよう努めている。自ら時計の針を動かし、何度も直して欲しいと言われる利用者に対し、気にかけて欲しいのではと考え、職員間でも共有し、皆で声掛けを増やすようにした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ会話の中から家族の方から情報を収集し、よりよいサービスが提供できるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態・残存能力の把握に努め自立支援ができるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がよりよく暮らすためにアセスメント・モニタリングを行い、必要関係者の意見アイデアが反映され現状に即した介護計画を作成しています	モニタリングは3か月ごとに実施し、介護計画内容が現状に即しているかどうかを確認している。介護計画は、家族に要望を確認し、職員からも意見を聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケア・実践・結果・気づきが記録にでき、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族のニーズに対して必要時には通院送迎・買い物・散髪ボランティア等、支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮し安全で豊かな生活を楽しむことができるよう、自立した生活の実現を支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切にしています。身体状況に合わせ適切な医療が受けられるよう支援しています	かかりつけ医は、往診をしてくれる協力医に変更をお願いしている。入所前に協力医の下で健康診断を受けてもらい、入所後も適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中での情報や気づきを共有し、必要時は看護師に相談し、ご利用者の適切な受診・看護を受けられるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように情報提供を行い病院関係者との関係づくりを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が重度化した時、又終末期の在り方について早期よりご本人・ご家族の思いを大切に話しあっております。事業所でできる事、方針を十分に説明し納得して頂いています。又地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	家族が事業所での看取りを希望すれば、医療処置はできないが、事業所ができる最大限のケアについて説明をしている。急変する度、家族に意思を確認し、納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。終末期は、ほとんど居室で寝たきりの状態になる事が多いので、寂しくないよう声を掛けるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え職員一同、応急手当や初期対応への訓練を行い、実践力を身に付けています。また講習会等にも参加し、対応できるように取り組みます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、避難訓練・避難経路の確認を定期的に行っています(水害訓練も含む)	社長は地域の災害時緊急連絡先の一人で、何かあれば連絡が入る仕組みとなっている。河川のすぐ傍に事業所があるため、各居室に「救命胴衣」が置いてある。避難訓練の時は、実際に着てみている。消防署にも年1回立ち合ってもらい、指摘された内容を基に、次の訓練時の参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように言葉かけや対応に努めていき、勉強会を通し適切な言葉かけであるか確認しています。	利用者の残存能力を信じ、必要以上の援助はせず、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。手持ちの服をたくさん着られる利用者には、「今日は温かいので、服を少し脱ぎませんか」と自分の意思で脱いでもらえるよう声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者が自己決定出来るような声かけ、本人の思い・希望が表現できるように場面づくりに職員一同気を配っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調・気持ちを常に重視しご希望に沿った支援ができるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・入浴時の着替えも声かけにて一緒に用意し、自己決定を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、下膳等できることは行って頂き、メニューの希望も取り入れ、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しむ支援を行っています	冷蔵庫にある食材を見ながら、その都度献立を立てている。寿司が好物の利用者が多いので、誕生日会の昼食は寿司にしている。在宅時には一家の大黒柱として敬われ、いつも一番に配膳されていた利用者には、その習慣を尊重している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・栄養バランス等一人ひとりの状態に合わせ支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを知って頂いて、食後はご利用者に合わせ、声かけ・セッティング・介助と支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座って頂き、排泄を促すように職員間で排尿時間・パターンを把握しトイレ誘導を促し自尊心を配慮しながら爽快感が味わえるよう支援を行っています	各居室にトイレが設置されているので、順番を待つことなくいつでもトイレを使用することができる。夜間も尿意があれば、コールを鳴らしてもらいトイレでの排泄支援をしている。尿意の無い利用者は、定期的に誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日・量・質を記録、自然排便を促すようヨーグルト・バナナ等、定期的に提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日3名、バランス良くゆっくり入って頂けるように支援を行っている。暖かい日等はご自分でシャワーを希望される方もおられ、見守りにて対応しています	できるだけ湯船に浸かってもらいたいと考え支援をしているが、湯船に浸かるのを嫌がる利用者には、シャワー浴で対応をしている。長湯をする利用者がのぼせないよう、湯加減を調整しながら入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣・その日の体調に合わせて日中のお昼寝、また夜間安心して睡眠できるように空調・室温・水分等気を配っています。不穏時には寄り添い入眠を促しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者が服用している薬について、目的・副作用・用法・用量について理解し誤薬を防ぐため、職員二人で確認・飲み忘れを防ぐために口に入れて飲み込むまで確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるよう出来る事の支援(食事の下ごしらえ・洗濯たたみ・新聞たたみ・モップがけ等)役割を持って頂いている。ご利用者の生活歴や力を活かした役割・お茶・お花・野菜作り等地域の方・職員と共に生きがいにつながるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気候に合わせ施設周辺に散歩に出かける。玄関先にて外気浴を行っている。年一回の敬老会は地域の方・家族の方の協力にて参加しています。地域のお祭りも参加しています。	天気が良い日は毎日でも散歩に出かけている。人それぞれの身体能力に合わせて個別に対応をしている。車いすの利用者を、他の利用者に押しってもらうこともある。桜やコスモスの花見、秋祭りそして敬老会等の機会には、出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お小遣いをお預かりしている方はいませんが、希望があれば対応はしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じてやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用の空間作りを心がけています。玄関のお花・絵などの気配り・テーブル椅子等の配置。ホールには季節感が出るような工夫をしています	玄関を入ると直ぐ、季節を感じる飾りつけが来訪者を出迎えてくれる。南向きの窓からは温かい日差しが差し込む。昼食後はその窓際に椅子を置き、日向ぼっこを楽しんでいる。居間にある一畳台は、利用者が洗濯物を畳んだり、貼り絵等の作品を作ったり、利用者にとって欠かせない場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はご利用者の関係性や相性を配慮しご利用者の了承の上あらかじめ決めていますが、レク活動の時は席を移動し楽しく過ごせるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご利用者の好みの物・使い慣れたものをご家族と相談し持参して頂いたり、居心地良く過ごせるよう工夫しています	自宅から思い出の品物を持ち込んでもらい、自分らしい居室づくりをしてもらっている。持ち込みの少ない人には、事業所にある物を提供し、居心地よく過ごせるように工夫している。家族が季節毎に飾りを付け替えてくれ、心温まる居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして身体状態に合わせ、安全で出来る限り自立した日常生活が送れるよう支援していきます		